

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

みなと報告

「みなとサマースクール2015」を開催

平成27年8月1日(土)、マリニピア沖洲のマリンターミナルにおいて、徳島県、沖洲海浜楽しむ会及び当事務所の主催で、「みなとサマースクール2015」を開催しました。このイベントには小中学生とその保護者合わせて約40名の方にご参加いただき、徳島小松島港清港会所属の海面清掃船「ブルークリーン」の「紹介」、沖洲海浜楽しむ会による「ちりめんじゃこ」を使用した「ワダジマモンスター探し」、当事務所の港湾業務艇「しまかせ」による「みなと見学会」を実施いたしました。

「ワダジマモンスター探し」については、加工された「ちりめんじゃこ」の中からワダジマモンスターと名付けた小さな生き物(タコ、イカ、カニ、エビ、魚の幼生など)を探し出し、台紙に貼り付けてワダジマモンスタアの図鑑を作成しました。作業中は大人、子供関係なく、多くの人が時間ぎりぎりまで、黙々とワダジマモンスター探しに集中していました。

また、「みなと見学会」では、徳島小松島港の沖洲地区から大神子海岸沖まで、普段なかなか見る機会のない海側からの港や海岸の見学と、津田防波堤の近くに停船して水中カメラで、防波堤の根元に生息する海生生物の観察を行いました。当日は運悪く海水が濁っていて視界は良くありませんでしたが、画面に魚などが写ると、子供たちの歓声があがっていました。

今後も、地域の方に港の役割や事務所所管事業について理解していただき、身近に感じてもらえるよう、引き続き特色のあるイベントを実施していきたいと考えています。



↑ ワダジマモンスター捜しの様子



↑ 「しまかせ」によるみなと見学会(海中観察の様子)

INDEX ▶

- みなと報告
「みなとサマースクール2015」を開催…………… 1
- みなとインフォメーション
撫養港海岸保全施設整備事業の進捗状況報告…………… 2
- なるほどみなと講座
津波を自動的にシャットアウト:大型浮体式防潮堤「フラップゲート式陸閘」の紹介…………… 3
- みなと通信
第6回 「みなとオアシス防災訓練」のご案内…………… 4

撫養港海岸保全施設整備事業の進捗状況報告

撫養港海岸では今後発生が危惧されている東南海・南海地震とその津波による被害を防ぐため、平成18年度から地盤改良及び堤防工事等を行っています。

整備区間2590mの内、今回ご紹介するのは、小鳴門橋東側の大塚製薬(株)の商品壁絵がある大塚倉庫建物の海側で行われている工事についてです。

大塚倉庫の海側では平成26年秋から鋼管杭基礎のL型防潮堤とフラップゲート式陸閘の設置工事を行っています。「フラップゲート式陸閘」については「なるほどみなと講座」で紹介しています。

鋼管杭基礎は直径1.2mあり、長いもので40m以上地盤に打ち込んでいます。工場で約15mに分割された鋼管杭は海上運搬した後、陸上トレーラーで現場に搬入します。その後「三点杭打機」という大型建設機械により打ち込んでいき、途中、分割されている鋼管杭を現場溶接により継ぎ足しながら、所定の長さまで打ち込んでいます。

打ち込みに際し、当現場は倉庫に隣接していることから、打撃による打ち込みではなく、中掘り工法という振動が少ない工法を採用して工事を進めています。

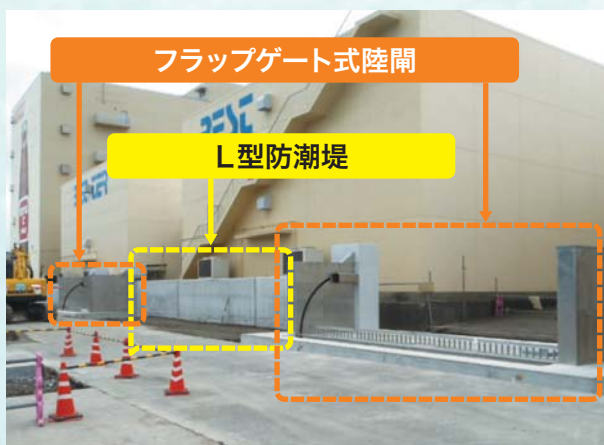
L型防潮堤とフラップゲート式陸閘は、鋼管杭と一体となるよう、鋼管杭上部に鉄筋を組み立ててからコンクリートを打設しています。また、フラップゲート式陸閘は4基設置する予定です。

この鋼管杭基礎により、地震時にも倒壊せず津波を防ぐことができる防潮堤となります。

大塚倉庫海側での工事期間中は、安全確保のため立ち入りを禁止しております。皆様方のご理解とご協力を引き続きお願いいたします。



↑ 工事実施場所 位置図



↑ L型防潮堤及びフラップゲート式陸閘(9月)



↑ 鋼管杭打設状況(3月)



↑ 現場に搬入された鋼管杭(3月)

こまぼんの なるほど!

みなと講座

～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

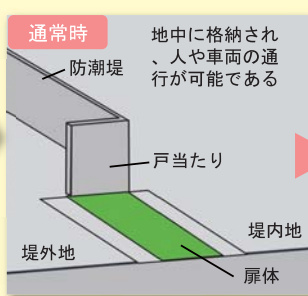
—第32回—

【津波を自動的にシャットアウト:大型浮体式防潮堤「フラップゲート式陸閘」の紹介】

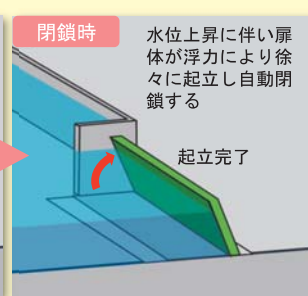
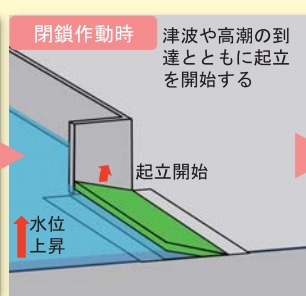
フラップゲート式陸閘は、これまでの陸閘とは異なる原理で作動する新しい構造の陸閘で、高潮や津波により海水が浸入しようとする時、扉体に働く浮力や水圧で自ら立ち上がり、閉鎖する事が可能となっています。



↑ 通常の陸閘(手動)



↑ フラップゲート式陸閘のイメージ

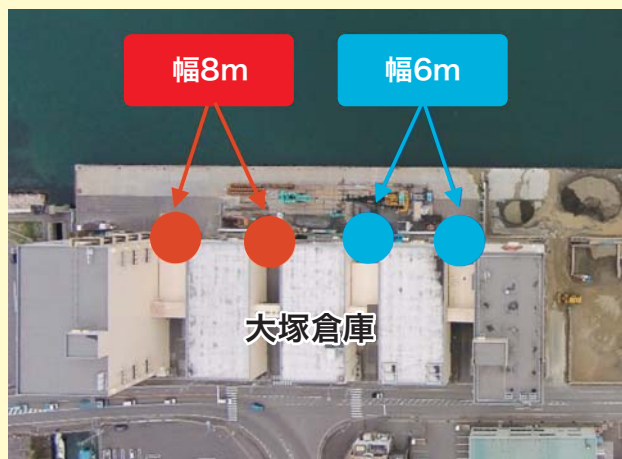


フラップゲート式陸閘の設置による効果としては、

- ①危険を冒してまで閉扉する必要がなく避難を優先できる。
- ②水位上昇するまで避難通路が確保できる。
- ③日常は地中に格納された状態であり人や車両が通行可能である。
- ④無動力のため停電時も可動する。

などが挙げられます。

撫養港海岸保全施設整備事業では起立後の高さが1.9mになるフラップゲート式陸閘を、大塚倉庫の4箇所の通路部にそれぞれ、幅6mのものを2基、幅8mのものを2基の計4基設置する事としています。



↑ フラップゲート式陸閘の設置位置



↑ フラップゲート式陸閘(通常時)



↑ フラップゲート式陸閘(閉鎖時)

ご案内 第6回「みなとオアシス防災訓練」

平成27年11月7日(土)に小松島みなとオアシス(小松島みなと交流センターkocolo)において、第6回「みなとオアシス防災訓練」を開催する予定です。実施主体は「小松島みなとまちづくり協議会(※)」で、防災訓練には協議会メンバーの他、例年地元の自主防災会、地域住民、地元高校生など、50名程度の方々に参加いただく予定です。今年の訓練では、四国地方防災エキスパート指導による緊急避難等に役立つロープワーク訓練や、徳島県とくしまゼロ作戦課による南海トラフ巨大地震の被害想定等の情報提供、小松島市消防課指導による人命救助に役立つ応急処置訓練などを予定しています。小松島みなとオアシスの近くにお住まいの方は、是非この機会にご参加ください。(※「小松島みなとまちづくり協議会」とは徳島小松島港本港地区を中心に、地域資源を活用した継続的な賑わいの創出活動や、人材発掘などの地域活性化策を推進するため平成22年10月に設立された組織です。)



昨年度の訓練風景

読者のみなさま、こんにちは、事務所長の佐野でございます。

最近、ゲリラ的な豪雨による堤防の決壊や、相次ぐ火山の噴火、例年になく多い台風の来襲等、自然災害が多発していることが、気がかりなところです。地球温暖化の影響や、地球内部の活動が活発化していることが原因ではないかと言われてはいますが、“災(わざわい)は忘れた頃にやってくる”“備えあれば憂い無し”という故事、格言を身にしみて感じているところです。

当事務所では、近い将来、必ず発生するとされる南海トラフ地震による津波から、鳴門市中心部を防護すべく、平成18年度から撫養港海岸保全施設整備事業を進めているところですが、本号は、その現場の様様を中心にお知らせいたしました。

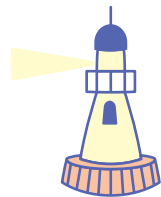
今後とも、皆様方のご協力・ご支援のもと、所掌する事業の円滑かつ効率的な執行に向け努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小松島港湾・空港整備事務所長 佐野 正佳

出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所 TEL (0885)-32-3357

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。